

休眠預金未来構想プラットフォーム 第6回全体会合 議事概要

日時	2018年2月23日(金) 10:00~12:00
場所	ベルサール九段
参加者	(敬称略) ・青柳光昌 (社会的投資推進財団) ・今井峻介 (フローレンス) ・鶴尾雅隆 (日本ファンドレイジング協会) ・加藤俊也 (NPO 会計税務専門家ネットワーク) ・金山 亮 (デロイト トーマツ グループ) ・鴨崎貴泰 (日本ファンドレイジング協会) ・岸本幸子 (パブリックリソース財団) ・柴崎順也 (公益法人協会広報・渉外・出版担当/コンテンツマネージャー) ・新田英理子 (日本NPOセンター) ・水谷衣里 (日本ファンドレイジング協会) ・渡辺由美子 (キッズドア)
アジェンダ	(1) 休眠預金等活用審議会の進捗状況の共有 (2) 基本方針(案)に関する意見交換

1. 決定事項

- 基本方針(案)に関する意見交換について
 - ・ 基本方針(案)については各団体本日の議論を基にパブリックコメントの提出について各自で検討する。
 - ・ 本日の議論の成果は、参考意見として未来構想 PF の全体会議参加者全員に送付を行う。
- 次回日程について
 - ・ 未定

2. 議事内容

(1) 休眠預金等活用審議会の進捗状況の共有

1) 内容の共有

- ・ 休眠預金等活用審議会の進捗状況について、内閣府の公表資料に基づき共有を行った。
- ・ 特に基本方針案提出までのスケジュールについて、公表資料を基に解説が行われた。

(2) 基本方針(案)に関する意見交換

公表された基本方針(案)に基づき、意見交換を行った。

意見交換によって得られた意見は以下の通り。

- ・ 非資金的支援を含め、生態系全体を育成していこうという方針であることは歓迎した

い。調査アドバイザーグループでの意見も踏まえられた内容になったと感じる。

- ・ 人件費にどの程度かけられるのか、という点については不明点が多いと感じる。
- ・ 伴走・評価という点について、人材育成にも時間がかかる。5年後の指定活用団体の姿を定量的・定性的にイメージしておけると良いのではないかな。
- ・ 透明性やガバナンスは大切だが、一方で管理が厳しくなりすぎることも逆効果である。
- ・ 英国の BSC の運営は一つのメルクマールになるが、一方で英国は伴走支援の担い手や育成組織、評価の担い手や育成組織が多様である。日本の場合はそうした取組を支える主体が少ない。生態系・エコシステムを育成する観点から、指定活用団体は役割を果たすべきで、複眼的な視点で指定活用団体が評価される仕組みを持つべきだろう。
- ・ 成果を発信することにもコストをかけるべき。広報や周知の人材は大変大切だが、そのコストは現状ではなかなか一般の団体は支払えない。休眠預金がコストを負担できる状況をつくるべきではないか。
- ・ 国・自治体の役割について、休眠預金に関する制度を周知する役割は果たすべきではないか。制度の周知には時間がかかる。この点については国・自治体がしっかりと発信を行うべき。
- ・ 選考委員について、多様な視点を持つ人材が含まれているべきではないか。ソーシャルセクターのことが全く理解できない陣容では、適切に指定活用団体を選定・評価することが難しいだろう。利害関係者を除くべきだという意見はわかるが、議論と議決を別にするという考え方もあろう。
- ・ 理事の人数については、必要最小限という記載があるが、それでよいのか。より多様なバックグラウンドを持つ人材が参画できる環境を整えるべきではないか
- ・ 「持続可能な仕組みの構築」という視点が入ったことは喜ばしいことだったと思う。しかし、仕組みの構築が問題なのであれば、ソーシャルセクター全体の問題の分析も必要なのではないか。社会の諸課題を分析する必要があるとは書かれているが、ソーシャルセクターの現状を分析するという文言を入れてはどうか。
- ・ イノベーションについて、p 2のはじめにソーシャルイノベーションについての記載があるが、休眠預金におけるソーシャルイノベーションをもう少し幅広く捉えたらよいのではないかな。目新しいものばかりが取り上げられるということではないようにすべき。評価するにあたっては、ソーシャルイノベーションが何を意味しているのか定義できないと、評価が出来ないのではないかな。

以上